OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１６年６月（2004年）No.４６２

あれから早や一年がたちました
「安居良枝さんを偲ぶ映写会」開催
７月４日（日曜日）難波市民学習センターにて

昨年の今月号のニュースのトップ記事には、悲報・安居良枝さんが他界、なる活字が大きく出ています。あれからもう一年がたってしまいました。いつも新鮮な映像を見せて頂いていた良枝作品が、この一年、見られませんでしたが、あらためて彼女の作品を見せていただいて良枝さんの在りし日を偲ぼうという企画がこの７月４日に実を結びます。どうか会員の皆様、ぜひ当日は会場へお運びくださるよう願っています。

■コンテスト募集情報

・東京アマチュア映像祭ビデオコンテスト
　１０分以内、テーマは自由、1,500円要。締切は６月末日
　応募票必要な方は会長までご連絡ください。

■ＯＭＣ公開映写会は１０月を予定：８月例会までの作品が対象

毎年恒例の公開映写会は今年も１０月を予定していますが、秋の土曜日は会場確保が難しいので何日になるか判りません。３ケ月前の７月１日以降の抽選会に賭けます。もっとも第１、第２日曜日以外の土日はどこかのクラブで例会があり、発表会の日を決めるのもひと苦労です。

６例会のお知らせ

６月例会は２６日（第４土曜日）１８時より、いつもの難波市民学習センター（JR難波駅上ＯＣＡＴビル４階）にて開催します。今月は沼島撮影会作品コンテストを行いますが、残り後半の部は時間の許す限り一般作品も上映しますので、作品をお持ちください。撮影会参加者はぜひ作品を出品されますようお願いします。なおコンテストの採点は出品者以外の方で行いますので、公平な目で審査のほうよろしくお願いいたします。多数のご出席をお待ちしています。

５月例会のレポート

このところ雨が続いて梅雨のような気象でしたが５月例会日（5/22）は幸い快晴でした。合原会長、関世話役がそれぞれ所要でお顔を見せてくれなかったは残念でしたが、出席者も２３名で、作品は 14 本が出品されました。

司会：有村氏、書記：前田氏、機材：江村、増池の両氏、受付：渡辺、奥の両氏の担当で会を進行しました。

■出席者：有村、今井、岩井、江藤、江村、岡本、奥、金子、紙本、進藤、中尾、西村、藤原、前田、増池、松本、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺（敬称略）の 23 氏でした。山口さんは作品のみ上映。

■上映作品（今月の講評は前田世話役です）

1.彦根城

増池　茂　　7分20秒

快晴の日に桜の咲く彦根城を撮影された作品です。色は綺麗だし撮影技術はしっかりしておられるし、作者の作品はいつも安心して見ていられます。以前スチールの経験がおありなのか、特に前景の使い方がお上手だと見受けました。BGM の選曲もこの映像にマッチしていました。天守閣からの眺望のカットもあり、彦根城に行ったことがない者でも良く判ります。展望台から眺める観光客の横顔があったら良かったなと思いました。ラストは夜桜２カットと白鷺１カットですが、白鷺は唐突ですし綺麗でもないので、外して夜桜をもう１カット入れたらいかがでしょうか。

2.有田陶器市へゆこうね～

山口幸代さん　　8分10秒

鹿児島県在住の山口さんが先月の会報で入会されたことをお知らせしましたが、早速第一作を関世話役を通じて送ってこられました。山口さんの作品は、確か昨年８月例会と１２月例会で関世話役が知人の作品として手を入れられて持参されたのを拝見した記憶があります。以前の作品は関世話役が手を入れただけあって、関映像ともいうべき編集テクニックと BGM の使い方がなされていたように思います。

しかしこの作品は関世話役から「まったく手を加えずに送ります。」とのメモつきでテープが到着しました。

鹿児島県在住の作者が佐賀県の有田へ行くには、結構遠距離の道程ではなかろうか思います。有田焼きの古里というと、いかにも古めかしい工場が並んでいる町並みだろうと思っていましたが、いきなり扇形に陶器を敷き詰められた舗道が TOP シーンで驚かされました。このカットはなかなか秀逸でした。ロマンティックボーゼリン街道といってドイツのマイセン市の街道を模してつくられたのでしょうか、意表をつく滑り出しです。続いてブランデンブルグ門らしい建造物、どこかヨーロッパの宮殿かお城らしい建物、花が咲き乱れる西欧庭園へと展開します。しばらくして瓦葺の有田焼工房が登場して、やはり、有田の町だなと安堵しました。このあたりからは豪華な有田焼の数々が登場します。撮影テクニックは実にしっかりしてるし、編集もアップありメディアム、ロングショットと変化を持たせて構成されているのでだれることなく最後までひっぱて行ってくれました。特に撮影テクニックについては関世話役のご指導の賜ではなかろうかと思いました。

しかしタイトルの出し方には司会から注文が付きました。TOP タイトルに「有田陶器市へ」とあり、ラストタイトルに「ゆこうね～」とあります。やはりここは TOP にはすべてを表示し、ラストは「終」にすべきでしょう。工房の中へ入ってから「絵付場」の表示が大きく出ます。絵付けの情景が見られると思って楽しみにしいたら、何枚かの有田焼のお皿が続きます。その後止まっているロクロと土こねへ続きます。見学時間帯の都合でやむ得なかったのでしょうが、ロクロや絵付け作業が撮られなかったのが一番惜しまれます。ガラス戸を開けて水車を見せるというシーンも良かったと思います。この水車のアップが展開しますが、先に水車の音を聞かせてから、羽根車を見せる手法は正解です。いきなり滝とその轟音を同時に見せられるとビックリしますが、先に音を少し聞かせてから映像を見せるのは編集テクニックのひとつです。そこを心得ているのはさすがと思います。

ここから街並みとお土産店の情景になりますが、このあたりは編集・音使いともひと工夫してほしかったです。”警備本部よりお知らせします‥‥”のアナウンスはノイズ以外のなにものでもありません。雰囲気としてノイズを入れるのなら、それらしい現場音を選択すべきでしょう。街並みから有田焼発祥地のお寺へは白の FO → FI をしていますが、何の意味もないので、カット繋ぎで良いでしょう。この作品はノンナレですが、場所の紹介ではなく、ご自身の印象を語る紀行作品としてまとめられたら、もっと素晴らしかったと思いました。なかなかいいセンスをお持ちのようで今後のご活躍を期待します。

3.かやぶきの里「美山」

渡辺雄史さん　　5分00秒

日本の原風景ともいえる京都府「美山」のかやぶき集落の風景を取材された作品。実にしっとりとした情感がただよってきてほのかな気分にさせてくれます。10 年前には 520 戸あったのが今は 320 戸に減少し、国の重要伝統的建造物保存地区の指定を受けたそうです。そのために今風住居への改築は不可能で、云ってみれば昔風の不便な生活を強いられています。住人は”夏涼しく、冬暖かい”といってくれたのが本心かどうかは判りませんが、見ているものには安堵の気持ちでした。この作品の良さはインタービューの成功でしょう。相手に気づかれないように撮られたそうですが、このシーンが作品を盛り立てています。オカリナの BGM も日本的なムードによくマッチしていたと思います。いい作品でした。

4.浪華丸見聞録

奥　宏さん　　3分30秒

「なにわの海の時空間」に展示してある菱垣廻船（ひがきかいせん）を紹介する作品です。館員の説明をナレーション替わりに使ってストーリーを展開していきます。大坂から江戸へ物資を運ぶのに使われたそうで、蒸気船が入ってくる明治１０年頃まで活躍したそうです。これを見ると菱垣廻船が判るという短編でした。

5.無垢な白い花

吉岡貞夫さん　　6分28秒

何とも可愛いタイトルですが、何の花だろうと思ったら、いきなり出てきた水芭蕉の花でした。水芭蕉と聞くと、まず尾瀬が頭に浮かびますが、意外に近いところにありました。兵庫県三田市の永沢寺（りょうたくじ）という禅寺です。なかなか立派な門構えで広大な敷地を持つ格式高い禅寺であることがうかがえます。寺の紹介から始まって、花菖蒲園へと展開します。花菖蒲はまだその時期ではないので、切り株ばかりの水の張っていない状態でしたが、その季節になるとさぞ綺麗だろうなと、思います。続いて本題の水芭蕉の映像が紹介されます。オーソドックスな手法で最後までぐいぐいと引っ張ってくれました。ここは隠れた撮影 SPOT の一つのようです。

6.桜

江村一郎さん　　5分10秒

雨というと、ついうっとおしくなって撮影を遠慮しがちですが、作者は雨の降る情景を積極的に取り入れ成功しています。江村流ともいうべきアップの視点で捉えた映像が次から次へと展開します。花びらに雨つゆが光り何ともいえない情感を捉えています。司会から”うまい、凄い感覚だ”とお褒めのコメントがありましたが、作者は”これはそんなにいいとも思わん”という漫才みたいなやり取りがあって沸きました。雨の桜から夜桜へと転換しますが、夜桜のシーンは平凡で美しいとは見えませんでした。BGM は始めは、器楽曲でしたが、途中から河口恭吾作詞・作曲の「桜」という歌曲に変わり、これも司会者から絶賛されました。

7.御柱祭

紙本　勝さん　　11分00秒

祭りを撮ったら右に出る者がいないという作者のお得意の作品の一つ。諏訪大社の勇壮な御柱祭はテレビで放映されるので、あらかたどんな映像なのかは知られています。しかし川を挟んで四つの社殿があり、それぞれの社殿の四隅に４本づつ１６本の御柱が寅年と申年の６年毎に八ヶ岳山麓の樅の木の大木を切り出し、氏子達が曳いてきて立て替えるとう６年に一度の壮大な祭りです。しかも 1200 年も続いているとい

うからまた驚きであった。作者は初めてなのでうまく撮れなかったと謙遜されておられたが、なかなかいい場所で撮っておられ大迫力でした。これは第一作で、次作は川越しと、御柱立てだそうで楽しみです。

8.春とおからじ合掌の里

今井義美さん　　7分00秒

厳冬期の白川郷合掌造りの映像です。雪のない地方の者から見ると、雪は何とも神秘的な風情のある自然現象です。ありとあらゆる物が雪のベールに包まれて無垢の神秘的な感じを受けます。この作品もまさにそのような情感に満ちた映像で、しんしんと降る雪に合掌造りの民家が威風堂々と立っている様は畏敬の念すら覚えます。作者自らのとつとつと語るナレーションがこの作品に暖かな味わいを与えています。一つ気になったのは、茶色に汚れたツララのアップがあったが、白無垢の清潔な作品の雰囲気を損ねています。外した方がよいと思います。

9.Ｃ６２２の魅力（ハイビジョン）

前田茂夫さん　　11分00秒

HDV の映像は精鋭度ではやはり DV とは比較にならない。この方式が今後の本命であることには違いないが、普及するかどうかはカメラの価格と編集のしやすさにかかっていると思います。作品的には実験の域を出ていません。

10.アユタヤの遺跡

有村　博さん　　8分11秒

アユタヤ王朝は西暦 1350 年から 412 年も続いたそうで、映像で見るとなかなか立派な街であったことが理解できました。赤レンガは全く現在の赤レンガと同じで当時の技術の高さを示しています。木の根に取り込まれた佛頭は異様な感じですが、歴史の重みを物語っています。作者お得意の海外物の作品ですが、撮影技術の高さと編集の的確さで実にいい作品に仕上がっていると思います。

11.ネパールの行商人

西村光雄さん　　9分00秒

作者お得意のネパール紀行の一つ。今回は物売りに絞って作品にまとめられています。作品の圧巻は物売り少年とのやり取りです。１個 200 ルピーのマジックゲームが４個 1000 ルピーとは笑ってしまいましたが、誠実に対応する作者もほほえましく見えました。横でカメラが廻っているからですが、なかなかしたたかな少年との交渉が下手な漫才を見ているより面白かったです。

12.飛騨古川祭

森田光春さん　　10分50秒

会場白板には飛騨古川祭と書いてあったが、作品を後から見ると、飛騨高山祭となっています。タイトル間違いのようです。メインイベントの起こし太鼓が TOP にきています。その是非は別にして、フラッシュの洪水には全く興ざめです。やむ得ないとはいえビデオ向きの被写体ではないようです。古川祭りにも高山祭りと同じような「からくり人形の山車」があったりして伝統の重みを感じました。作品は撮影・構成とも申し分なく、これまでの森田作品の中で最高の仕上がりであろうと思います。

13.なんばパークス

安居利次さん　　8分00秒

作者お得意の公共的施設の紹介と、それに対する痛烈な批判がメインテーマです。しかし今回は第三セクターではなくて、純粋な民間施設ということで、矛先は少し丸めているようです。屋上の緑化公園も無駄と決め付けていますが、全く同感です。

14. 内戦の置き土産

山本正夢さん　　5分10秒

作者お得意の、私達の見知らぬ海外取材物です。今回の映像はまことに衝撃的です。どこのテレビ番組にも負けない素晴らしい作品で、私達の心にカンボジア内戦の悲惨さをひしひしと訴えてくれました。東アジアで起こったこと、年代が近いからでしょうか、あのアウシュビッツ以上の悲惨さに衝撃をうけました。同じクメール人同士の凄惨な戦いがあったことをこの作品は如実に物語っています。それに２カット挿入されている仏像の映像は作者の心からの哀悼の意を表しているように見ました。このカットで鑑賞している私達も心が安らぐのでした。素晴らしい作品で公開映写会候補の最右翼の一つです。